

卒業生と保護者代表、教職員のみのお席となりましたが心温まる卒業証書授与式となりました。

今でも米沢興譲館に入学した時のことをよく覚えています。「高校デビューは最初が肝心だ！」と張り切っていた私にクラスのみなは心優しく、親しく接してくれました。皆さんも三年間の高校生生活を振り返っていることと思います。皆さんにとって、何が一番思い出として残っているでしょうか。部活動、SSRの研究活動、文化祭、などいろいろあると思います。個人的には、三年間の部活動がとも思いついて残っています。私はCSSに所属していたのですが、研究活動の思い出はもちろんのこと、同じ部活動に所属する仲間が私の宝物でした。私の中学校時代には見たことも無いようなごく頭のいい人もいて、先輩方には宿題

のわからない所を教えてくださいました。良き友人、先輩、後輩に囲まれて幸せでした。私達はこれから社会に旅立ちます。皆さんご存知の通り、社会は今、大きな混乱の最中にいます。その原因はコロナウイルスや、少し前では第三次世界大戦の懸念がありました。特に、私は受験期にもかかわらず、アメリカとイランの衝突には不安感を抱いていました。もし、次に戦争が起これば、八十年前とは比にならないほどに科学技術の進んだこの世界では、何が起るかには誰にもわかりません。受験の合格など、今はどうしても目の前の不安に目が行ってしまいます。しかし、本当は明日が約束されている平和な日々に感謝をすべきだったのかもかもしれません。耐え難い不安に襲われた時だからこそ、あたりまえなことにも目を向けることの大切さに気づかされました。これから、社会に出てからも、私達はこの米沢興譲館高校での日々を大切に胸にしまいながら毎日を大切に歩んで生きます。この三年間親身になって指導くださいました校長先生をはじめとする諸先生方、ともに励んできた在校生の皆さん、今までありがとうございしました。そして、私が落ち込んでいた時もずっと優しく、暖かく支えてくださった家族に心から感謝申し上げます。最後に、米沢興譲館高等学校の益々のご発展と、本日ご臨席くださいました皆様のご多幸を心からお祈り申し上げます。門出の言葉といたします。

門出の言葉

卒業生代表 香田 駿

(米沢四中出身)



暖冬を迎え、初めての雪の無いセンター試験がこの米沢の地で行われたのか、はたまたずつと春だったのか、そんな季節に私達はこの米沢興譲館高校を卒業します。本日は、私達卒業生のために、かくも盛大に卒業式を挙げていただき、また、ただ今は校長先生をはじめ、ご来賓から温かい激励の言葉をいただき、卒業生一同大変嬉しく思い、また、深く感謝しております。

私達はこれから社会に旅立ちます。皆さんご存知の通り、社会は今、大きな混乱の最中にいます。その原因はコロナウイルスや、少し前では第三次世界大戦の懸念がありました。特に、私は受験期にもかかわらず、アメリカとイランの衝突には不安感を抱いていました。もし、次に戦争が起これば、八十年前とは比にならないほどに科学技術の進んだこの世界では、何が起るかには誰にもわかりません。受験の合格など、今はどうしても目の前の不安に目が行ってしまいます。しかし、本当は明日が約束されている平和な日々に感謝をすべきだったのかもかもしれません。耐え難い不安に襲われた時だからこそ、あたりまえなことにも目を向けることの大切さに気づかされました。これから、社会に出てからも、私達はこの米沢興譲館高校での日々を大切に胸にしまいながら毎日を大切に歩んで生きます。この三年間親身になって指導くださいました校長先生をはじめとする諸先生方、ともに励んできた在校生の皆さん、今までありがとうございしました。そして、私が落ち込んでいた時もずっと優しく、暖かく支えてくださった家族に心から感謝申し上げます。最後に、米沢興譲館高等学校の益々のご発展と、本日ご臨席くださいました皆様のご多幸を心からお祈り申し上げます。門出の言葉といたします。



Yonezawa Kojokan High School

令和2年3月24日発行

第47号

山形県立

米沢興譲館高等学校

〒992-1443

山形県米沢市大字笹野1101

TEL 0238-38-4741

FAX 0238-38-2531

<http://www.yonezawakojokan-h.ed.jp/>

はなむけの言葉

在校生代表 岩田 舜平

(小国中出身)

今年はいよいよ暖冬となり、満開の桜咲き誇る、あたたかな春が近づいていることを日々感じます。

本日もこの米沢興譲館高校を卒業される三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

卒業なさる皆さんの胸の内には、この三年間興譲館で過ごした青春の思い出が色鮮やかに蘇っていることと思います。私たちが在校生もまた、先輩方と過ごした日々の思い出が次々と蘇り、胸がいっぱいになります。思い返してみれば先輩方はいつも私たちの憧れでした。

各種学校行事においては、決して妥協することなく全力で取り組み、それでいてユーモアあふれる様々な姿を見せてくれました。特に興譲祭では自分も自治会執行部の一員として仕事をすることで、先輩方が夜遅くまで残って作業をする姿や、寸劇ひとつとっても真剣に練習する姿をみて、行事を成功させることへの情熱や意識の高さを肌で感じました。

また、興譲祭が終わって、本格的に受験ムードになると、三年生教室、多目的教室、図書室、職員室、どこを見ても一生懸命に勉強に打ち込む三年生の姿がありました。そんな先輩方の姿を見て、私たち二年生も一年後に迫った受験勉強に向け、ますます気が引き締まりました。

今、私たちが在校生にとって卒業する皆さんの背中にはあまりにも大きく、この伝統ある米沢興譲館高校を受け継ぎ発展させていけるのか、不安な気持ちでいっぱいです。しかし、卒業生の皆さんがこの三年間伝統として守ってきた「興譲の精神」を胸に、私たちが在校生一同、卒業生の皆さんのような立派な興譲館生になれるよう、先輩方がより誇りに思える米沢興譲館高校にできるよう、一生懸命努力していきたいと思えます。

最後になりますが、卒業生の皆様の新天地でのご活躍、ご発展を心よりご祈念申し上げます。饒の言葉といたします。

※在校生が出席できなかったため、ここに「はなむけの言葉」を紹介いたします。

1月
21日

予餞会



1月
17日

センター試験 激励会



センター試験激励会では特に一〜五組の代表の方々の決意表明に励まされました。特に五組の代表の方の決意表明が心に残っています。その方は「今、このように感じている緊張や様々な気持ちも今後の人生の中で前にも後にもない一度きりの体験で、それを感じられるのは今の自分だけの特権である。」と言いました。その言葉になるほどと思った私は一気に緊張がとけ、センター試験が楽しみになりました。他の方々の決意表明にも感動し、こんな素晴らしい同志をもつ仲間となら絶対に乗り越えられる、そんな気持ちになりました。さらに、そのような仲間と一緒に三年間同じ学校で学べたことが誇りに思えて自信につながりました。そんなセンター激励会でした。

同志の仲間

三年二組 山木 郁歩
(高畠中出身)



では会話は全て英語で行ったため、自分の考えていることをうまく伝えることができなかつた部分もあった。しかし、一緒に折り紙を折ったりそれぞれの文化を写真などを交えて紹介しあったりして時間いっぱい楽しく交流をすることができたと思う。今回の交流会は同世代の人たちと英語で会話をすることができ、参加した全員にとって非常に有意義なものになったと感じている。外国の方と英語で会話をすることは今後増えていくと思うので、今回得た経験をまた次の機会に活かしていきたい。



国立羅東高級中学との交流 楽しく学びの多かった交流会

二年二組 川崎 優希
(赤湯中出身)

世界へ挑戦

フェンシング部 1年4組 峯田大空 (米沢三中出身)

欧州カデ(U17)サーキットフィンランド大会に日本代表として出場しました。初めての国際大会で自分の実力を確かめる機会となりました。

大会に参加して海外選手との体格差とパワーに圧倒され、国内選手とは違ったプレイスタイルに苦戦しました。しかし、自分の強みであるスピードを活かしたフェンシングで挑んだことは大きな自信となりました。また、国際舞台で戦うために必要な力と今の自分の力を確認することができました。

個人戦と団体戦では日本選手が優勝しました。日本ライバル選手の活躍を目の当たりにし、来年は個人、団体ともに表彰台を目指したいという目標が出来ました。



全国大会を経験して

スキー部 1年5組 中沢愛歩 (米沢五中出身)

新潟県で行われた全国大会の回転競技に出場してきました。初めての全国大会でかなり緊張していましたが、2本とも滑りきることができました。滑りとしては、自分の思い通りの滑りが出来ず、悔いが残ってしまいました。また、優勝した選手と同じ学年だったということもあり、自分としてもまだまだこれからだなと思います。これからも練習に励み、来シーズンに向けて技術をしっかりしていきたいと思います。今年は雪不足で満足に練習も出来ない中、全国大会に進めたのは支えて下さった家族やコーチ、顧問の先生のおかげであると感じています。本当にありがとうございました。



諸活動の記録

【バレーボール部】

県新人大会 出場(対酒田光陵高校 0-2で1回戦敗退)

【バスケットボール部男子】

県新人大会 出場(対山形学院高校 55-124で1回戦敗退)

【フェンシング部】

第44回全国高等学校選抜フェンシング大会山形県予選会

女子フルレ団体 第1位

女子エベ団体 第1位

第27回JOCジュニア・オリンピック・カップ

ジュニア男子フルレ 大西ひかる 45位

ジュニア女子エベ 島崎 茜 48位

ジュニア男子エベ 大西ひかる 54位

峯田 大空 82位

ジュニア女子フルレ 佐藤ひまわり 92位

カデ男子フルレ 峯田 大空 49位

カデ女子エベ 和泉 希音 20位

カデ女子サーブル 大久保南美 63位

カデ男子エベ 峯田 大空 12位

カデ女子フルレ 大久保南美 96位

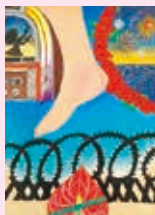
欧州カデサーキット・フィンランド大会

カデ男子エベ 峯田 大空 77位

第44回全国高校選抜大会北海道・東北予選会

女子フルレ団体 第5位

女子エベ団体 第2位(全国高校選抜フェンシング大会に出場)



【スキー部】

令和元年度山形県高等学校総合体育大会 第71回山形県高等学校スキー大会

男子回転 菅原 耀 24位

(東北高校スキー選手権大会出場権獲得)

女子回転 中沢 愛歩 9位

(東北高校スキー選手権大会・全国高校総体 全国高校スキー大会出場権獲得)

第75回国民体育大会冬季大会スキー競技会山形県予選会

少年男子大回転 菅原 耀 22位

少年女子大回転 中沢 愛歩 16位

第42回東北高等学校スキー選手権大会

アルペン競技は雪不足のため中止

令和元年度全国高等学校総合体育大会 第69回全国高等学校スキー大会

女子回転 中沢 愛歩 64位

【吹奏楽研究クラブ】

第43回全日本アンサンブルコンテスト山形県大会

木管三重奏 金賞

Fl 齋藤 千尋・Ob 山岸 優心・Cl 森 恵怜奈

木管三重奏 銀賞

Fl 須田 千尋・Cl 佐藤 綾姫・A.Sax 横山 陽音

読書感想中央コンクール 指定読書山形県審査

優良賞 2年4組 我妻 真衣

作品題名「敵か味方か」

読んだ本 森川成美 著「マレクスの虹」

第9回科学の甲子園総合優勝目指して

2年1組 萩野賢皓 (長井北中出身)

科学の甲子園県大会では事前に与えられた課題に対して探究心を持って研究し、その成果をもって優勝することが出来ました。

全国大会で与えられた事前課題はモーターで車を作り、制限時間内にブロックをたくさん運ばせるというものです。今は慣性力と電子回路の実験を行っていて、車の速度と詰めるブロックの個数の最適化を図っています。また、山形大学理学部に協力していただき、生物や物理、化学などの実験の練習も行いました。

大会当日は私たちの武器である探究心と想像力を存分に発揮して楽しんで課題をこなし、総合優勝目指して頑張ります。

※第9回科学の甲子園全国大会は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため開催中止となりました。



トビタテ！留学JAPAN

ガーナの未来から学んだこと

二年二組 長谷川 亮 太
(高畠中出身)



私は昨年、トビタテ！留学JAPAN第五期生として二週間、ガーナの人権教育について学んできました。発展途上国であるガーナでは、家庭内暴力や児童労働が問題となっており学校に通うことのできない子供たちがたくさんいます。学校になかなか通うことのできない子供たちと人権について学ぶ中で、教育とは「今日生く、つまり学んだことが今日生きた証であると感じました。興譲祭の際、この経験の報告会には三十人を超える方々が様々な意見をもって聞いてくださいました。これからも多くの方々の国際交流や途上国支援に関わる意見を持つ機会づくりの一環として、今回の経験を拡散していければと思います。



第二十一回高校生

小論文コンクール

個人部門 沖永荘一博士記念大賞(最優秀賞)

新たな大志を抱く

二年二組 佐藤 詩央里
(川西中出身)

私は夏休みの課題の小論文に、助産師になるという幼い頃からの大志を綴りました。そして、最優秀賞をいただくことができました。はじめは書き方も何も分からず悩みましたが、だんだん思いが溢れ出し手が止まらなくなりました。書いている時の高揚感や自分自身の新たな発見は貴重な経験であり、大きな喜びでした。人の大志は、日々変化していくのだと思います。助産師になるという大志を果たすまでに心が折れても、私はこの小論文を書いた時の気持ちを思い出せばまた立ち上がることができます。そして、この大志を果たす頃には新たな大志を抱いている、そんな、常に未来を見据える人でありたいです。



上杉雪灯籠まつり

一年生国際探究科志望生徒が参加！

貴重な体験を通して

一年二組 横山 文香
(米沢三中出身)

私は上杉雪灯籠まつりでキャンドル作りのイベントスタッフをしました。お客さんのほとんどが小さい子供だったので、どのようにしたら楽しんでくれるのかどんな話をしたらいいのかわざりませんでした。でも、同じ目線になって話したり幼稚園や小学校での話を聞いてみたり、工夫しながら積極的に交流することができました。帰るときに笑顔で「ありがとう」と言われたときはとても嬉しく、やりがいを感じました。少しだけ私たちの地元米沢のためにもなれたと思います。今回の活動で学んだ誰かのために行動することのやりがいや人と接することの楽しさをこれからの学校生活や将来につなげていきたいです。



興譲館だより新タイトルデザインについて

一年二組 美術部 飛渡 凜(小国中出身)

興譲館高校は個性的な人が多くいて、その人達を受け入れる温かい人もまた沢山いることで成り立っていると感じました。そこから「興譲館」の文字に一つずつはいつている丸の形や色で、興譲館生を表現しました。